

極  
祕

外務省歐米局第二課

千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記

昭和五年十月

## 例　　言

- 一、第一章序説中英佛海軍協定、不戦條約及聯盟軍縮準備委員會ニ於ケル「ギブスン」聲明ニ關シテハ「ロンドン」海軍會議ト關係アル限度ニ於テ記述シ置キタルニ過キサルヲ以テ其ノ各々ノ詳細ニ付テハ夫々ノ記録又ハ調書ニ依ラレタシ
- 二、第二章及第四章ニ於テハ英米側ト我方トノ連絡振及折衝振ノ推移ヲ逐次的ニ明ニスル爲關係電報ヲ殆ント原形ノ儘日時順ニ收錄シ置ケリ之カ爲英米間ノ豫備交渉及英米側ト我方トノ豫備交渉相交錯シ時ニ混淆ノ感ヲ興フルモナキヲ保シ難キモ右ハ交渉ノ經過及其ノ性質ニ鑑ミ之ヲ諒トセラレタシ
- 三、第四章日英米間ノ豫備交渉ハ帝國全權ノ「ワシントン」及「ロンドン」到着前迄ノ經過ノ記述ニ過キス全權ノ米國ニ於ケル行動及「ロンドン」到着後ノ經過ニ關シテハ帝國全權報告書第一編會議前記ヲ參照セラレタク尙全權ノ米國ニ於ケル行動ニ關シテハ本書記述ノ連鎖ヲ存スルノ意味ニ於テ其ノ極ク概要ヲ記スルニ止メタリ

# 千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記

## 目 次

### 第一章 序 説

一頁

第一節 米國ニ於ケル海軍建造法ノ成立	一
第一項 「ジュネーヴ」三國會議失敗ノ影響	一
第二項 海軍省原案ニ依ル海軍建造法ノ内容	二
第三項 建造法案ニ對スル米國輿論ノ反響	五
第四項 建造法案ニ對スル英國及佛國輿論	七
第五項 下院修正案ノ可決及上院ニ於ケル審議未了	八
第六項 海軍建造法通過懸念ニ關スル大統領演説	一〇
第七項 海軍建造法ノ成立	一二
第八項 海軍建造法ノ成立ニ對スル各國新聞論調	一四
第二節 海軍制限方式ニ關スル英佛協定問題	一六
第一項 英佛協定成立經過概要及協定內容	一六
第二項 英佛提案ニ對スル日米伊ノ態度	一七
第三項 英佛協定ノ後始末	一八

第三節 「ジュネーヴ」會議後ニ於ケル英國政府ノ對海軍軍縮態度	一一八
第一項 英國政府ノ主力艦制限問題提議	一一八
第二項 海軍軍備縮少會議開催方ニ關スル在米英國大使「ハワード」ノ聲明	三三三
第四節 不戰條約ノ締結	三七
第五節 米國政府ノ新軍縮政策	四〇
第一項 第六回聯盟軍縮準備委員會ニ於ケル「ギブスン」聲明	四〇
第二項 「ギブスン」聲明ニ關スル各國新聞論調	四八
第三項 「ギブスン」聲明ニ對スル各國ノ態度表明	五一
第四項 「フーヴィー」大統領及「スマムスン」國務長官ノ演說及聲明	五三
<b>第二章 英米豫備交渉及帝國在外使臣ノ關係國側トノ折衝</b>	
第一節 英米豫備交渉ノ開始	六〇
第一項 勞働黨内閣ノ成立ト「ドーザ」新駐英米國大使ノ任命	六〇
第二項 米國ノ對軍縮方針ニ關スル「スマムスン」國務長官出淵大使會談	六二
第三項 英米豫備交渉ノ開始及我方トノ聯絡	六三
第四項 「ドーザ」大使ノ「ビルグリムズ、クラブ」ニ於ケル演說及「マクドナルド」首相ノ「ロッジーマウス」ニ於ケル演說	六六
第五項 「マクドナルド」首相訪米說ト其ノ真相	七八
第二節 英米内交渉我方參加方ニ關スル提議	八〇
第一項 「ドーザ」大使ノ日英米三國交涉案及我方ヨリノ主動的提案慾望	八〇
第二項 右ニ對スル松平大使所見及請訓	八一
第三項 「ドーザ」大使ノ松平大使議長說提議及右ニ關スル請訓並ニ帝國政府ノ對軍縮方針ニ關スル請訓	八二
第四項 本件ニ關スル佐藤聯盟事務局長意見	八四
第三節 關係國代表者間非公式相談會ニ關スル提議	八五
第一項 「マクドナルド」首相ノ關係國代表者間非公式相談會開催方提議	八五
第二項 非公式相談會開催方ニ關スル「スマムスン」國務長官出淵大使會談	八六
第三項 非公式相談會議題案ニ關スル米國側意見	八七
第四項 非公式相談會議題案ニ關スル佐藤聯盟事務局長意見	八九
第五項 非公式相談會ニ關スル「マクドナルド」首相松平大使會談	九〇
第四節 英米内交渉我方參加方ノ提議ニ關スル帝國政府回訓及帝國政府ノ對軍縮一般方針	九三
第五節 比率問題ニ關スル松平「ドーザ」兩大使間一般的會談	九六
第六節 關係國代表者間非公式相談會議題案ニ對スル帝國政府訓令（附、軍縮全般ニ亘る専門的對策ニ關スル海軍訓令）	九七
第七節 英米兩國ニ於ケル造艦中止聲明	一〇四
第一項 「マクドナルド」首相及「フーヴィー」大統領ノ造艦中止聲明	一〇四
第二項 本件ニ關スル出淵大使「キヤッスル」國務次官補會談	一一一
第三項 本件聲明ニ關スル英米新聞論調	一一三
第八節 英米豫備交渉ノ進捗及之ニ伴フ我方ノ折衝	一一四
第一項 軍縮會議ノ基礎的問題ニ關スル英米ノ意見交換及比率問題ニ關スル日米懇談	一一四

- (一) 軍縮商議ノ基礎ニ關スル英米ノ具體的意見 ..... 一一五  
 本件ニ關スル「スマスン」國務長官及「キヤッスル」國務次官補ト出淵大使トノ會談 ..... 一二二  
 (二) 「ドーザ」大使ヨリ松平大使ニ對スル英米商議經過内示及比率問題ニ關スル兩大使  
會談 ..... 一二三  
 (三) 英國側態度ニ關スル松平大使「クレーリー」局長會談 ..... 一二六  
 比率問題ニ關スル出淵大使「キヤッスル」國務次官補會談 ..... 一二七  
 (四) 「ドーザ」大使ヨリ松平大使ニ對スル英米商議經過内示及比率問題ニ關スル兩大使  
會談 ..... 一二八  
 (五) 佐藤聯盟事務局長ニ對シ比率問題ニ關シ「ギブスン」大使ト懇談方訓令 ..... 一二九  
 第二項「フーヴァー」大統領ノ「マクドナルド」「ドーザ」暫定協定不承認及英米商  
議停頓 ..... 一三〇  
 「マクドナルド」「ドーザ」暫定協定案成立並ニ之ニ對スル米國大統領ノ不承認 ..... 一三〇  
 英米商議停頓 ..... 一三一  
 (二) 米國側ノ態度ニ關スル出淵大使「キヤッスル」國務次官補會談 ..... 一三一  
 第三項「マクドナルド」「ドーザ」暫定協定ニ對スル帝國政府ノ態度（附、専門的對  
策ニ關スル海軍訓令） ..... 一三三  
 第四項 英米商議停頓後ニ於ケル「マクドナルド」首相「ドーザ」大使間ノ折衝及比  
率問題ニ關スル懇談 ..... 一三八  
 (一) 比率問題ニ關スル「ドーザ」松平兩大使會談 ..... 一三八  
 英米商議依然停頓 ..... 一三九  
 (二) 比率問題ニ關スル「マクドナルド」首相松平大使會談 ..... 一四〇  
 (三) 右ニ關スル英米新聞論調及報道 ..... 一四一  
 聯盟總會ニ於ケル帝國全權ノ演說 ..... 一四一  
 第七項 七割比率要求ノ根據ニ關スル帝國政府訓令 ..... 一四五  
 (一) 松平大使英米側トノ接觸ヨリ得タル感想及所見上申 ..... 一五〇  
 (二) 比率問題ニ關スル「マクドナルド」首相松平大使會談 ..... 一五一  
 七割要求ノ根據ニ關スル帝國政府訓令 ..... 一五三  
 第八項 英米假協定ノ成立 ..... 一五九  
 英米商議進捗ノ模様並ニ比率問題ニ關スル「ドーザ」松平兩大使會談 ..... 一六〇  
 英米假協定成立ニ關スル「スマスン」國務長官出淵大使會談 ..... 一六六  
 英米假協定中未定ノ一萬噸巡洋艦三隻ノ問題 ..... 一六七  
 英米假協定米國案ニ對スル英國對案、英首相渡米問題、我方トノ交渉開始問題ニ  
一六七

## 關スル「ドーズ」松平兩大使會談

六

## 英米假協定ノ成立及會議招請

一六八

## 會議招請遲延及英米保有量低下ニ關スル「ドーズ」松平兩大使會談

一七〇

## 第九項 英米假協定案及將來ノ非公式交涉ニ關スル帝國政府訓令

一七一

## (一) 松平出淵兩大使ニ對スル帝國政府訓電

一七二

## (二) 右訓令執行方ニ關スル松平大使意見

一七三

## 非公式交涉開始方及我要求ニ關スル松平大使「リンゼー」外務次官會談

一七五

## (四) 右訓令ニ關スル「スチムスン」國務長官出淵大使會談

一七六

## 第十項 「マクドナルド」首相ノ米國訪問及「ラビダン」協定

一七九

## 「マクドナルド」音相ノ米國訪問及「ラビダン」協定

一八三

## 比率問題ニ關スル出淵大使宛訓令

一八四

## 右ニ關スル「スチムスン」國務長官出淵大使會談

一八五

## (五) 「ラビダン」會談ノ内容ニ關スル出淵大使「コットン」國務次官會談

一八六

## 「マクドナルド」首相ノ歸英

一八七

## 「ロンドン」海軍會議招請

一八七

## 第一節 招請狀發送

一八七

## 第二節 會議招請ニ對スル各國回答

一九一

## 第一項 米國回答

一九一

## 第二項 日本回答

一九二

## 第三章

### 第三項 佛國回答

一九七

(参考) 對英回答中ニ言及セラレタル三軍關聯性ニ關スル佛國ノ主張

一九九

## (一) 十月十二日軍縮準備委員會佛國陸海軍代表ノ談

一九九

## (二) 十月十四日在京佛國代理大使ノ申出

二〇〇

## (三) 十月十四日「ブリアン」外相ノ内話

二〇一

## 第四項 伊國回答

二〇二

## 第三節 日、佛、伊回答ニ關スル各國新聞論調

二〇四

## 第四章 會議開會前ニ於ケル日英米豫備交涉

二〇九

## 第一節 日米豫備交涉

二〇九

## 第一項 帝國全權米國經由問題

二〇九

## (一) 帝國全權米國經由方ニ關スル「スチムスン」國務長官ノ申出

二〇九

## (二) 帝國政府ノ右申出受諾

二一〇

## 第二項 比率問題ニ關スル米國側意見表示方懇談

二一一

## (一) 十月十六日「スチムスン」國務長官出淵大使會談

二一一

## (二) 十月二十三日「スチムスン」國務長官出淵大使會談

二一三

## 第三項 比率問題ニ關スル「スチムスン」國務長官覺書及右ニ對スル出淵大使反駁

二一三

## (一) 「スチムスン」國務長官ヨリ比率問題ニ關スル覺書手交及右ニ關スル同長官出淵大

使會談

(二) 比率問題ニ關スル「スマスン」國務長官覺書原文	一一八
(三) 右會議ニ關スル出淵大使所見上申	一一五
第四項 比率問題ニ關シ重ネテ懇談方訓令	一一五
第五項 比率問題ニ關スル出淵大使「ウイルスン」公使會議	一一六
第六項 米國政府ノ態度ニ關スル「ドーズ」大使内話	一一三
第七項 「スマスン」國務長官覺書ニ對スル帝國政府訓令及國務長官出淵大使會議	一一三
(一) 訓令	一一四
(二) 右ニ關スル「スマスン」國務長官出淵大使會議	一一三
第八項 「ドーズ」大使ノ日米豫備交渉回避	一一五
第九項 「キャスル」國務次官補東京特派問題	一一三
(一) 「キャスル」國務次官補特派方內意表示	一一四
(二) 右ニ關スル出淵大使意見上申及帝國政府ノ右申出受諾	一一四
(三) 本件ニ關スル米國新聞論調	一一四
第十項 會議ノ議事方法、比率問題、主力艦問題、輿論指導方法等ニ關スル帝國政府	一一四
訓令及「スマスン」國務長官出淵大使會議	一一四
(一) 訓令	一一四
(二) 右ニ關スル「スマスン」國務長官出淵大使會議	一一四
第十一項 若規財部兩全權ノ米國到着及兩全權ノ米國當局トノ交渉	一一四
第十二項 若規財部兩全權米國出發後ニ於ケル出淵大使ト米國當局トノ會議	一一四
第一項 巡洋艦、主力艦、潛水艦問題ニ關スル出淵「キャスル」兩大使會議	一一四
(一) 我方要求ノ巡洋艦保有量ニ關スル出淵大使宛訓令及右ニ關スル「スマスン」國務長官出淵大使會議	一一四
第二節 日英豫備交涉	一一四
第一項 日英豫備交涉開始方懇談	一一五
(一) 非公式交涉開始方ニ關スル松平大使ヨリ「ウェルズレー」副次官ニ申入	一一五
(二) 補助艦總括七割及八時巡洋艦七割主張ニ關スル「マクドナルド」首相松平大使會談	一一五
第二項 比率問題ニ付英國自治領側ノ不安除去方ニ關スル訓令	一一五
第三項 「マクドナルド」首相ノ隻數ニ依ル均衡論提案	一一五
第四項 帝國政府ノ七割主張ニ基ク具體的試案	一一五
(一) 具體的試案ニ關スル訓令	一一五
(二) 右訓令ニ關スル「マクドナルド」首相松平大使會議	一一五
第五項 「マクドナルド」首相ノ非公式會議內容漏洩防止ニ關スル希望及隻數ニ依ル均衡論	一一五
第六項 交涉行詰ノ局面打開方ニ關スル松平大使請訓	一一六
(一) 松平大使請訓	一一六
(二) 將來ノ交涉方ニ關スル松平大使所見上申	一一六
第七項 各艦種ニ關スル英國提案	一一六

## 附 錄

千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記重要事項日誌……………[一七]

# 千九百三十年「ロンドン」海軍會議前記

## 第一章 序 説

### 第一節 米國ニ於ケル海軍建造法ノ成立

#### 第一項 「ジュネーヴ」三國會議失敗ノ影響

千九百二十七年六月二十日瑞西國「ジュネーヴ」ニ於テ開會セラレタル日英米三國海軍軍備制限會議ハ主トシテ八時砲巡洋艦ニ關スル英米主張ノ懸隔甚シキ爲所期ノ成果ヲ收ムルコト能ハス八月四日休會ノ已ムナキニ至リタルカ休會ニ當リ三國全權ハ共同宣言ヲ發シ其ノ末段ニ於テ左ノ如ク聲明セリ

『右困難ニ顧ミ三國全權ハ一先ツ會議ヲ休會シ茲ニ各自ノ所見ヲ率直ニ聲明シ問題ヲ更ニ各本國政府ノ攻究ニ委ネ依テ以テ近ク解決ニ達センコトヲ期スルノ賢明ナルコトヲ信スルモノナリ

尙三國全權ハ「ワシントン」海軍條約第二十一條第二項ニ基キ招集セラルヘキ會議ハ締約國ノ協議ニ依リ右條項ノ豫定セル千九百三十一年八月ヨリモ早キ期日ニ於テ之ヲ開キ右會議ニ於テ決定セラルヘキ協定事項ハ同年十一月主力艦建造計畫ノ實行ト同時ニ其ノ效力ヲ生セシムルヲ適當ト認ヌ其ノ趣旨ヲ以テ各本國政府ニ進言センコトヲ約ス  
以上各項ノ進言ヲ爲シ而シテ各國間ニ一致ヲ見タル諸點並ニ一致ヲ見ルニ至ラサリシ事項ニ關スル前諸項ノ報告ヲ提出スルニ當リ三國全權ハ今回會議ノ遭遇シタル障礙ハ海軍軍備制限ニ一步ヲ進メントスルノ努力ヲ終止セシムルモノニアラスシテ寧ロ各國間ニ到達シ得タル合意ノ程度ニ顧ミ將又今回ノ會議ニ依リ各自ノ立場ヲ闡明シ得タルノ點ニ於テ各本國政府間合議ニ依リ見解ノ相違ヲ調和シ遠カラス補助艦制限ニ關スル協約ヲ完成シ經費節減ノ目的ヲ達スルト共ニ各國國防ノ安